

1. 授業の概要(ねらい)

現代日本において、平均寿命の著しい延長による急速な高齢化社会の到来は、加齢による疾患の発生頻度を著しく増加させた。骨粗鬆症による骨折、脊柱や関節の変性疾患などは増加の一途をたどっている。また2007年の国民生活基礎調査によると全国の有訴率(病气やけがなどで自覚症状がある者を有訴者といい、人口1000人当たりの有訴者の比率を有訴率という)は327.6であり、「腰痛」「肩こり」「手足の関節が痛む」などの運動器に関連した愁訴が上位を占めている。このような状況において、運動器の基本構造および障害に関する理解を深めることは21世紀の高齢化社会に属する一員としてきわめて重要であると考え、「生活の医学」を通して、人間の運動器に関する知識を深めていただきたい。

2. 授業の到達目標

ヒトの運動器の基本的構造、代表的な運動器障害について学ぶ。

3. 成績評価の方法および基準

成績評価の方法:出席状況、筆記試験

4. 教科書・参考文献

教科書
特になし

5. 準備学修の内容

ヒトの骨と関節、筋肉の名前、位置を理解しておく。

6. その他履修上の注意事項

講義中の私語は厳禁、目に付けばその場で退室を命じる、その場合、当科目の履修継続は認めない、運動器の構造と障害に興味のある学生に履修していただきたい。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス:運動器の基本構造と障害について学ぶ意義を解説する。
- 【第2回】 骨の基本構造と役割について習得する。
- 【第3回】 関節の基本構造と役割について習得する。
- 【第4回】 骨格筋の基本構造と役割について習得する。
- 【第5回】 脊髄・末梢神経の基本構造と役割について習得する。
- 【第6回】 上・下肢の主な関節の構造と機能について習得する。
- 【第7回】 骨格(骨、関節、筋肉、皮下組織)の感染症について習得する。
- 【第8回】 自己免疫疾患(特に関節リウマチ)とは何か、について習得する。
- 【第9回】 骨折に関する総論を習得する。
- 【第10回】 上肢の代表的な骨折の特徴と治療法について習得する。
- 【第11回】 下肢の代表的な骨折の特徴と治療法について習得する。
- 【第12回】 脊椎疾患について習得する。
- 【第13回】 変形性関節症(特に最も患者数の多い変形性膝関節症)について習得する。
- 【第14回】 講義のまとめ:生活の医学Iの講義の中でも特に重要なポイントを再度解説するので、その理解を深める。
- 【第15回】 まとめと試験